



世界認証に挑戦!

日本一安全・安心なとしまへ

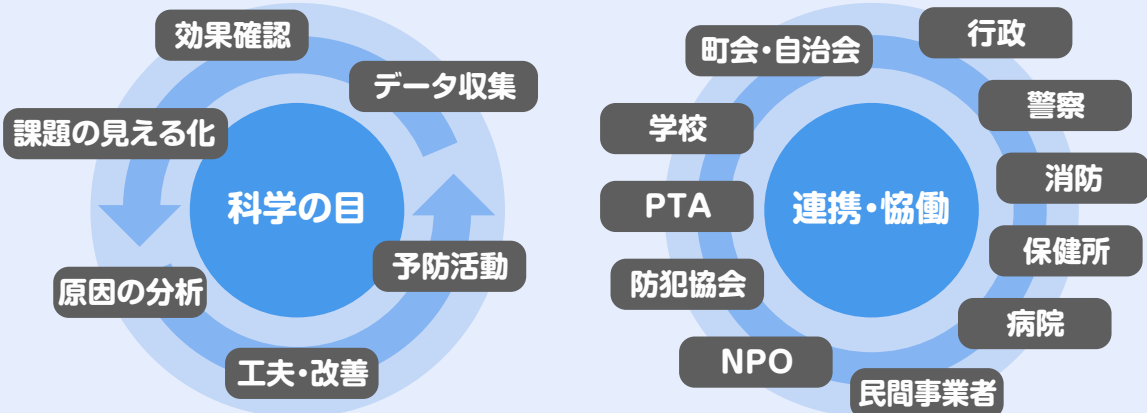
セーフコミュニティとはWHO(世界保健機関)が推進する、予防に重点を置いた安全と健康の質を高めるまちづくりです。区では平成24年度の認証取得を目指しています。

区セーフコミュニティ担当 ☎3981-1782

Q1 セーフコミュニティの考え方のポイントを教えてください。

A セーフコミュニティには、「けがや事故は、偶然の結果ではなく、原因を調べて対策を行なうことで、必ず予防できる」という基本理念があります。

効果ある予防のためには、「科学の目」と「連携・協働」がポイントです。

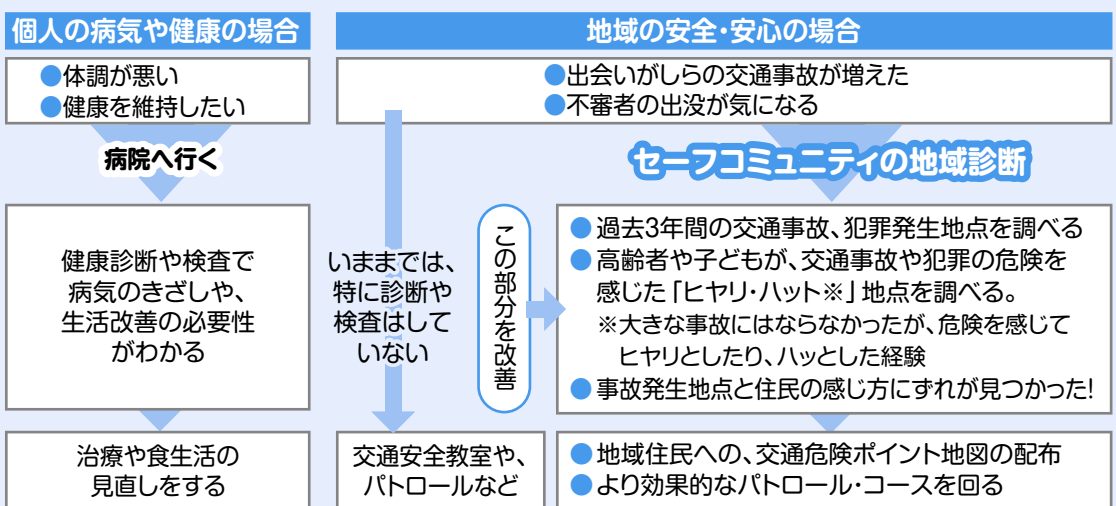


Q2 「科学の目」とは、どのようなことですか。

A セーフコミュニティはWHO(世界保健機関)が推進する制度です。

そこで、右の図のように私たちの病気・健康を例に説明します。私たちが「体調が悪い」「健康を維持したい」時には、健康診断や検査をします。

同じように、地域の安全・安心に不安があっても、診断や検査をしなければ、有効な対策はできません。セーフコミュニティでは、地域の状態を診断したり、原因を探るため、統計分析や社会調査などの科学的手法を利用します。これを「科学の目」と呼びます。



Q3 具体的に、どう地域の診断や、それに合った対策をするのですか。

A 右上の図のように、まず健康診断や、検査にあたることをします。実際の事故や犯罪が起こった地点を調べ、高齢者や子どもたちが、生活の中で感じている「ヒヤリ・ハット」した地点を調査します。また、自転車利用者やタクシードライバーの、「ヒヤリ・ハット」情報なども、地図に書き込んでいきます。すると、事故発生地点と、地域に住む方との感じ方にずれが見つかることがあります。

こうして、下図のような「交通危険ポイント地図」を作成し、これを地域に配布して、効果的な対策を取るための材料とします。

交通危険ポイント地図の例



実際に交通事故があった場所

- 子どもの事故
- ★ 高齢者の事故
- その他の事故

住民へのアンケート調査

危険と感じているところ

Q4 それでは、「連携・協働」は、どのように進めていくのですか。



A 例えば、一人暮らしの高齢者などの見守り活動は、民生・児童委員や町会などの地域の多くの方々や、団体が行なっています。そうした一人ひとりの情報を集めれば、より良い取り組みができると考えています。

区内の高齢者のうち、一人暮らしの割合は約37%で、今後ますます増えると予想しています。普段の生活の中でのけがや、事故を予防し、体調の急変や災害時の緊急対応など、関係機関の横の連携・協働を強化し、知恵と力を出し合うことで、みんなが安心して暮らせる地域社会づくりを進めていきます。